

火の魂ファミリーへ、2016年1月の1ヶ月もお疲れ様でした。

2016年も始まったばかりですが、残りの11ヶ月も力を合わせて成長していきましょう！

さて、今日は私が好きな言葉であり、30歳からの人生を作った考え方の1つを紹介したいと思う。

**「下足番を命じられたら、日本一の下足番になってみる。そうしたら誰も君を下足番にしておかぬ。」**

この言葉は、1873年生まれの小林一三という山梨県出身の実業家の名言の1つです。

現在の境遇に納得いかななくても、腐らずにそこでできることを精一杯やる。

腐ってしまっても何も生み出しはしないし、小さな仕事でも手を抜かず一生懸命行うことで、周りからの信頼を勝ち取り大きな仕事に繋がり、人の上に立つ仕事を任されるようになるという意味です。

どんな仕事でも、手を抜かず向上心を持って一生懸命やれる人は、向上心を持って取り組んだ分だけ能力が高まり、自分自身の成長した分だけ大きな仕事を任されるようになります。

しかし逆に、小さな仕事を意味も考えず、向上心もなく手を抜いた人は、その小さな仕事も任されなくなるのが社会であり、それが人生というものです。

戦国時代の織田信長に仕えた豊臣秀吉の話も有名です。

===

信長に仕えた秀吉は、まず馬飼いを命じられます。秀吉は、来る日も来る日も、暇さえあれば馬の体をなで続け、そのお陰で馬の体はいつでも毛艶がピカピカです。それが信長の目にとまり、草履取りを命じられます。草履取りになった秀吉は、寒い季節、信長さまが草履を履いても”ひんやり”しないようにと草履を懐に入れ暖めてから信長に差し出すという実に細やかな心遣いでまたまた信長に気に入られます。そして、台所奉行になれば、節約に励み、燃料であった薪の費用を今までの3分の1にまで減らしたといえます。秀吉は出世して行く過程で次々とアイデアを絞り、信長に認められて行くのです。

===

一度きりの人生を、何となく生きていけば、何となくの人生になり、

一度きりの人生を、仕事や生き方に向上心を持って行えば、努力した分だけ成長して豊かになる。

初めは小さな仕事から始まる、その与えられる仕事の大きさが人生を作るのではなく、与えられた仕事に対する考え方や姿勢が人生を作っていることを、どうか忘れないでほしい。

目の前の仕事を『自分の仕事』と思わず、目の前の仕事が『自分の人生』を作っていると自負し、向上心を持って一生懸命に仕事していきましょう。